

HFHJ News Letter



29

2013 June

ハビタット・ジャパン ニュースレター
第29号 2013年6月発行



活動の現場から

東北

ソーラー・プロジェクト

カンボジアとタイの8日間



岩手県大船渡市

／ 設置完了！ ／



News 1

ソーラー・プロジェクト 第一軒目のパネル設置完了！

第1期

個人宅

見直される自然エネルギー
まずは、個人宅から設置開始

震災から2年が経ち、多くの被災者が直面する課題は、生活を立て直すことです。ハビタット・ジャパンは、太陽光発電に着目しました。20～30年の耐用年数を誇るシステムを利用し、第1期では、個人宅への支援を行います。太陽光発電システムを設置し、修繕した家に住み続けることができるよう、持続可能な居住のための支援を行います。

第2期

コミュニティ

公共施設への導入により
地域にさまざまなメリットを

第2期では、コミュニティへの支援として、公民館の屋根に太陽光発電システムを設置します。公共施設への設備設置により、災害等の緊急時にも電源を確保できるようになるほか、余剰電力の売却によるコミュニティ施設の運営維持を通して、地域の絆を支えていきます。

※ このプロジェクトは、Hilti Foundation、Aktion Deutschland Hilftの資金援助と、ブルームバーグL.P.の協力により実施しています。



自家発電

災害時の備え

東北を
ソーラーで
元気に！



ソーラーパネルの設置が いよいよ始まりました

第1期事業では、被災した世帯のうち、特に経済的支援が必要とされる、重度の障がい者を抱える13世帯を対象に、2～3kWのソーラーパネルを自宅の屋根に設置します。5月30日(木)には、第1軒目への設置が完了しました。

ホームパートナーの声

大船渡市 葉澤健一さん

『ありがたい』の一言に尽きます。ソーラーパネルを設置したいと思っていましたが、高額で、元を取るまで時間がかかるので諦めていました。でも、今回の支援のおかげで生活を取り戻す一歩を進められ、将来への希望が湧いたと思います。



住宅修繕支援を市内全域に拡大 50世帯の支援を目指す

支援世帯を選定中

震災以来、ニーズが高まっているのが住まいの再建です。2012年8月より宮城県東松島市の一部地域で実施してきた被災住宅の修繕支援事業を、この3月より市内全域に拡大。震災から2年が経ってもなお、自宅の修繕を終えていない家族が少しでも早く安心して「わが家」で暮らせるよう全力でサポートしていきます。

※このプロジェクトは、(特活)ジャパン・プラットフォームの助成で実施しています。



Before



After

写真は、津波被害を受けた家屋の壁の修繕例

対象は半壊以上の家屋ですが、一部損壊でも生活への支障が大きい場合は対象とし、これまで以上にきめ細やかな支援を行います。



家に安全と安心を！ タイで50世帯の修繕が完了

50世帯修繕

2012年から急ピッチで進められたタイの洪水被災者支援では、修繕の必要な箇所をただ新しくするのではなく、より丈夫で水にも強いコンクリートの柱や、軽くて頑丈なブロックなどを用いて住居自体の強度や安全性の向上を図りました。鍵付きのドアや窓を取り付けるなど、将来的な減災や住まいの安全性・住環境改善にも配慮しています。

※このプロジェクトは、(特活)ジャパン・プラットフォームの助成で実施しています。

タイでは社会保障制度が十分ではないため、特に低所得世帯にとって家屋修繕などの大きな出費は非常に困難な状況です。一方で、例年のように洪水被害に遭う村の人々にとって住居の安全は喫緊の問題でした。今回、そうした人々の安全や生活環境改善、生活の質向上に貢献できたことはとても大きな成果です。



現地駐在スタッフ 盛田青葉

Staff's Voice



Before



After

ナンブンさんは修繕後、柱に虫食い除けの赤い塗装を施しました。また余った資材で台所の拡張なども行っています。



Before



After

洪水の被害で住居全体が完全に傾いてしまったジャイさんの家のリノベーションを行いました。



支援金募金受付中 詳細はHPをご覧ください <http://www.habitatjp.org>

緊急支援フェーズ
Disaster Response

2011年3月～2012年3月

がれき撤去、暖房器具や家財セットの配布、個人宅の修繕を主に実施。仮設住宅やみなし仮設でのボランティアとの活動も積極的に行いました。

復興支援フェーズ
Community Revitalization

2012年4月～

コミュニティ施設の修繕、コンサル支援を含めた家屋修繕事業、仮設住宅での生活環境の改善を実施。安心して暮らせるコミュニティの再建を目指し、ソーラーの活用などを通じた継続的な支援を行います。



News 2

住宅再建相談会を開催

岩手県大船渡市にて

ハビタットは、仮設住宅や公民館を会場として、巡回相談会を実施し、住宅再建に関する支援制度の仕組みについてコンサルティングを行うほか、個々の悩みについても相談にのっています。相談会は小規模で、参加者は毎回10～20人程度。仕事の後で参加できるよう、夕方から夜にかけて開催することもあります。関心が集まる高台への集団移転や災害公営住宅への入居については、他地域の先行事例も紹介し、地域を超えた情報交換を通して共通の課題の解決を目指しています。個別相談の順番を待つ人々の間で自然に会話がはじまることも多く、相談会の場を利用して悩みを共有したり、新たな気づきを得たりして、地域内での結束が具体的な協力につながったケースもあります。

被災住宅ローン問題に救いの手を

コンサルティングを進めるなかで、ハビタットのスタッフが深刻だと感じるのは、被災住宅ローンの問題です。自宅が津波で流されてもローンだけが残し、今でも支払いを続けている世帯が少なくありません。そうした世帯のために「被災ローン減免制度」があります。一定の条件を満たせば、ローンの免除や減額をしてもらえる公的な支援制度ですが、まだ制度のことを知らない被災者も多く、制度の利用も進まないのが実情です。ハビタットでは「弁護士による被災ローンおはなし会」を開催して、ローン減免制度の活用をよびかけています。



戸別訪問や公民館などを利用して支援制度の説明会を実施。住民の皆さんと直接お話することで、少しでも具体的に伝えられるように努めました。

僕自身も大船渡出身の被災者で、現在みなし仮設で生活しています。震災から2年が経ち、ある程度落ち着き始めましたが、補助金の期限、消費税の増税、震災後の土地の高騰などを考えると、今取り組まなければいけない課題が山積みだと途方にくらえています。今後はみなし仮設での戸別訪問にもより力を入れて、コンサル支援を続けていく予定です。ハビタットだからできること、同じ被災者である自分だから理解できることを生かして、引き続き被災者に寄り添う支援を行っていきます。



Staff's Voice

大船渡スタッフ 板沢信明

海を渡って希望を建てた カンボジアとタイの8日間

2013年2/16～2/23 シェムリアップ・Cham Bok He小学校
住まいが明日を築くカンボジア8日間

公衆衛生設備が整っていないこの村では、多くの子どもが不衛生な水を飲み、感染症にかかっています。そこで、生徒や近隣の村人に1日1万ℓの飲用水を供給する「アクアタワー（水のろ過装置）」を設置。最終日には完成式典が行われ、総勢400人が集まりました。



1,セメント作り レンガを積み上げるためのセメントづくりを初めて体験しました 2,ブロック排水用の穴を掘り、ブロック積み。作業は悪戦苦闘ですが、周りに子ども達が集まってきて笑顔がこぼれます 3,ランチブレイク お昼ご飯は毎日30種類以上!初挑戦するおかずもあって毎回ドキドキの時間でした 4,アクアタワーの土台完成 アクアタワーがついに完成!井戸からくみ上げた水をろ過し、1日に1万リットルの水を供給することが可能です 5,手洗い指導 贈呈式の後では、子どもたちに手洗いの重要性を伝えるイベントも実施しました 6,記念写真 たくさん子どもたちと、きれいにになった手を上に掲げて撮影

2013年3/11～3/18 バットウンタニ地区
タイの家族と一緒に家を建てる8日間

2011年の洪水で大きな被害を受けたこの地区で、貧困のため親戚8人と窮屈な実家に暮らすジャムロンさん一家を支援。家族と共に汗を流して働くうちに、言葉がわからなくても笑顔は言葉以上に人と人の距離を縮める力があると実感できた8日間となりました。



1,建築前 屋根と構造以外は何かもない、建築前の家の様子 2,壁作り ブロックとセメントを使い、現地スタッフに教えてもらいながら丁寧に壁づくりの作業を進めました 3,ご飯 お昼ご飯はタイ料理!日本人の口にも合うように辛い味付けがされています 4,小学校 地域での交流として現地の小学校を訪問。80人の生徒が迎えてくれ、ゲームをしたりして楽しめました 5,贈呈式 贈呈式では、ジャムロンさん家族が新しい家で幸せに暮らしていくことを願い、皆で折った鶴を渡しました 6,完成 みんなと一緒に流した汗と涙、交わった笑顔の結晶が完成。家の建築をとおして、家以上のものを得ました

Youth Program

ユースプログラム

国内外の問題に取り組むハビタット・ジャパンの学生支部、キャンパスチャプター（通称CC）に2つの大学から新しい仲間が加わりました。これからも、ますます活動を盛り上げていきます。



名古屋外国語大学 NUFS Community Builders

もともと独自の国際ボランティアサークルとしてハビタットの海外住居建築活動に参加していたNUFSがついにCCに。「新入生が加わった今、人数が増えたからこそ出来ることにも積極的に取り組んでいきたい」と語る代表の杉山さん。



日本大学 Ala-N

去年の夏に代表の湯村さんが友達と参加した海外住居建築活動をきっかけに設立。「Ala」はラテン語で「翼」、「N」は「日本大学」。「笑顔で世界を繋ぐことをビジョンに活動を広げていきます」と強い意気込み。



✎ ハウスサポーター募集中!

ハウスサポーター(会員)になると、1口1,000円/月(学生500円/月)のご支援でハビタット・ジャパンが行う国内外の取り組みを支援し、ハビタットが目指す「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現に参加することができます。

例えば、スリランカでは…

月々500円で窓1枚、月々1,000円でドア1枚、
月々5,000円で屋根一面

<http://www.habitatjp.org/contents/support/house.html>



✎ 復興支援ボランティアレポート

今年のGWは4月27日～29日に岩手県大船渡市で、5月3日～5日に宮城県東松島市・名取市で東北復興支援ボランティアを実施。多くのボランティアに参加いただき、被災家屋の修繕から仮設商店街の店舗塗装、お祭りの手伝いまで、様々な活動を行うことができました。地元の方からの感謝の声を聞き、今後もハビタットは次なる活動に向けて、ボランティアの皆さんと草の根レベルでも支援を続けていきます。

災害支援ボランティアなど、最新のボランティア募集情報はハビタットのHPをご確認ください。 <http://www.habitatjp.org>

✎ 海外ボランティア募集中!

ハビタットが実施する海外建築ボランティアプログラム「Global Village (GV)」に、個人で参加できる(通常はチーム単位の申し込みのみ)企画です。ほかにはない学びと体験のチャンスです。専門家の指導のもと、初心者でも建築作業に参加することができ、また、現地ではハビタット・ジャパンの日本人スタッフが同行するので、初めての海外ボランティアでも安心です。

▶ タイの家族と一緒に家を建てる活動 8日間

地球の歩き方、旅行会社エスティーエートラベル、ハビタットの3団体が共同開催する一般募集チーム「Japan Hope Builders」の参加者募集中です。

建築場所 バンコク(タイ王国)

活動日程 A:2013年8月28日(水)～9月4日(水)

B:2013年9月11日(水)～9月18日(水)

活動内容 現地の家族と共に、住居の建築を行う

参加費用 177,000円(燃油費除く)

▶ カンボジアの家族と家建てよう 8日間

H.I.S.と共同で企画したボランティアプログラム。バタンバンで「Japan Hope Builders」として活動。世界遺産であるアンコールワットへの観光も行います。

建築場所 バタンバン(カンボジア)

活動日程 2013年8月17日(土)～8月24日(土)

活動内容 現地の家族と共に、住居の建築を行う

参加費用 189,000円(成田発着)、

199,000円(関西・名古屋・福岡発着)(燃油費込み)

今月の

ハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熱き人々



中川英明
事務局長

これまで、国連機関やNGOに活動の場を与えられ、国際協力に関わってきました。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) スタッフとしてインドシナ、スリランカ、旧ユーゴスラビアなどで難民・国内避難民の支援に携わったほか、NGOスタッフとして、バングラデシュ、南スーダン、アフガニスタンでの支援事業に参加しました。

海外6カ国の色々な住まいで暮らしましたが、冷戦終結前の共産主義国ベトナムでは、政府指定の住宅かホテルで暮らす以外の選択肢は西側外国人にはありませんでしたし、長い内戦で疲弊したサラエボでは、難民として国外に逃れていた方の留守宅に住まわせてもらいました。スリランカ生まれの愛犬と一緒に6カ国を転々としたのですが、どんな住居であっても、一日の終わりに自分の家に帰れることは、心の安らぎだと実感しました。

NPO法人ハビタット・ジャパンは、今年10周年を迎えます。この大切な年にあたり、国際協力を志した頃の初心を思い返しています。非営利、非政府のNGOの活動は、本質的には社会変革のための活動だと、私は考えます。人間が作り出し、積み上げてきた社会の不正な仕組みは、人間の力で変えられるはずだし、変えていかなければならないと信じています。「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現に向けて、知恵と力を振り絞っていきたいと思います。

ハビタット・ジャパンの活動には、ボランティアと支援者の皆さまの積極的なご参加と継続的なご支援が必要です。スタッフ一同を代表し、今後とも一層のお力添えとご協力をお願い申し上げます。



笑顔のたえない明るいオフィス
メンバーに囲まれて働く



中川と共に大西洋と太平洋を渡り、カリブ海や地中海で泳いだ愛犬のカナナ



東北に向かうユースビルドメンバーの見送りでエールを送る

編集後記

今号の一面を飾ったソーラー・プロジェクトは、最新の環境技術を活用した恒久的な復興支援のかたち。様々な課題が報じられるなか、被災地に暮らす人々の生活を支えるために、ハビタットが出した答えの一つです。今後もハビタットだからできることを続けていきます。